

6月5日朝会の校長の話(概要)

校長先生には高1の娘がいますが、ブラスバンドでチューバという楽器を演奏しています。3月に発表会に行ったら、手話で歌うプログラムがありました。聞いたところ、その歌は、いじめを受けて自殺した15歳の小森香澄さんが生きている時に遺した詩に曲を付けたのだそうです。今日はその詩の一部を紹介します。

「窓の外には、夢がある 夢のとなりには自然がある

自然の上には空がある 空の上には星がある

私たちが生きる 地球という船で 例えどんなことがあっても

希望を見つけて生きていけば 笑顔はきっと戻ってくる

明日の朝日胸に抱いて 思い出の中握りしめて また明日ひとつ夢を見る」

香澄さんは、「優しい心が一番大切だよ。その心を持っていないあの子たちの方が可哀想なんだ」と話していたそうです。先週、3年1組の学級の時間を見に行きました。『ふわふわ言葉』と『チクチク言葉』についてクラスで話し合っていました。いじめにつながらないために、自分の発する言葉について、一人一人一生懸命考えていました。今月は「ふれあい月間」といって、いじめを無くしたり、一人一人を大切にしたりすることについて、考えたり行動したりする月です。給食の時間にも「窓の外には」を流しますので、いじめのない明るい学校にしていきましょう。